

# 一般質問

## 本間敏行

(ふらの未来の会)

### 旅費の算定基準の見直しは

問 道内では、179市町村のうち、旅費の支給方法として定額制を実施しているのは174市町村、実費制は5市町村となっている。

財務省は公務員の旅費制度のあり方に参考とするため、昨年11月に民間企業の旅費に関する実態調査をし、国内の有力企業540社のうち、実費制は51%と定額制の47%を上回った。現状において、官民での取り組みに対しての格差があるかと考える。公金の透明性が重視される時代、我々議員も市職員も、経費の支出方法の再検討が必要かと考えるが見解は。

答 富良野市の宿泊料は、平成18年に条例改正し、現在定額制で、職務に関係なく一律で道内9800円、道外10900円で運用している。

本市の宿泊を伴う旅費の支給状況は、平成23年度は176件

となっており、主要な用途としては、国等への要望関係、先進地視察関係、職員研修、観光・物産などによる道外出張があり、札幌への出張は38件のうちほとんどが日帰りとなっている。

道内の自治体で見ると、本市の旅費9800円は最低水準にある。

定額制については、同じ目的の場合に支給額に差が出ず、公平かつ迅速な事務処理ができることに一定の合理性があることから、当面、国や他の多くの自治体と同様に定額制での運用を考えているが、社会情勢の動向を把握しながら、適正な支給基準の見直しに努めていきたいと考える。



JR 富良野駅

## 天日公子

(民主クラブ)

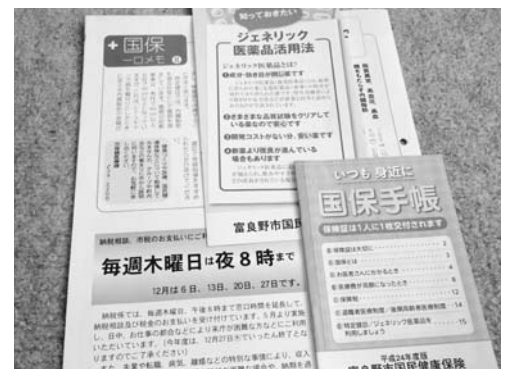
### 国民健康保険の運営は

問 国民健康保険事業運営の現状は大変厳しいが、課題と取り組み状況は。

答 平成24年3月末の被保険者数は3888世帯7383人。

国民健康保険税の課税基礎となり総所得金額の無い世帯が概ね3割を占め、軽減対象世帯も5割を超える。低所得者が多く国保の財政運営上厳しい状況。医療費の一人当たり費用額は平成23年度34万9千円になる。収入の確保と保険給付費の縮減が課題で納税相談を充実するとともに、公平な税負担の確保を図る上から預貯金や動産の差押えなど滞納処分の徹底や短期被保険者証、資格証明書の活用により収入率の向上を図っている。

問 平成24年度予算では一般会計からの借入金で対応したが、平成25年度の国民健康保険税はどのように考えているのか。また赤字が生じた場合の対応は。



国民健康保険の維持に向けて

答 本年度の課税状況は当初見込んだ予算額を若干下回る。歳出は前年度に比べ減少傾向となっており一般会計からの貸付金は解消できると予想。国民健康保険は独立採算が基本であり、一般会計からの繰入は法定内繰入が原則。赤字が生じた場合は次年度からの繰上充用などでの対応が基本。税率改正については、平成24年度の決算状況等を踏まえた中で判断したい。

問 国への改善要望の内容は。  
答 全国民を対象にした医療保険制度の一本化。国保事業の広域化の推進。保険者を都道府県に。国庫負担割合の引上げ。  
「その他の質問」  
◇母子保健事業の経過と推進